

20086

当院における Cypher-ISR の OFDI 所見について

¹社会医療法人天陽会 中央病院、²社会医療法人天陽会 中央病院

中原 三佐誉¹、上森 光洋¹、上籠 快¹、染川 宜輝¹、喜田 佳介¹、宮田 翼¹、福山 歩美¹、桐原 和也¹、高岡 順一郎²、宮村 明宏²、厚地 伸彦²、有馬 良一²、加治屋 崇²、福永 研吾²、二宮 登志子²

【背景】

Cypher は2004年に日本で初めて保険適応された DES である。DES-ISR は BMS-ISR と異なり、多様な組織性状を呈する事や病理学的検討ではステント内での新規アテローム性動脈硬化(Neoatherosclerosis)は BMS より DES で高頻度に認められるとの報告がある。また Cypher-ISR については晩期再狭窄やステント血栓症の報告がある。

【目的】

当院における Cypher-ISR の OFDI の所見について後ろ向きに調査した。

【対象】

2010年4月から2016年6月までに Cypher-ISR に対して OFDI を施行した 33 症例 39 病変。

【方法】

OFDI の所見を Homogeneous、Heterogeneous、Layered、Lipid、Thrombus、分類不能の 6 つに分類し、さらに PSS (peri-stent contrast staining) の有無について調査した。

【結果】

Homogeneous は 23.1%、Heterogeneous は 2.6%、Layered は 12.8%、Lipid は 46.2%、Thrombus は 5.1%、分類不能は 10.3% となった。PSS (+) は全体の 12.8% であった。また Thrombus の症例は PSS を伴う VLST (very late ST) であった。

【考察】

本研究では Neoatherosclerosis と考えられる Lipid が最も多く、次いで新生内膜の増殖による Homogeneous が多かった。また VLST であった 2 症例は PSS が見られ、PSS と血栓症の関連性が示唆された。

【結語】

Cypher は 2011 年に製造・販売中止され約 5 年経過した。現在は第 2、第 3 世代 DES が登場しているが、Cypher は現在も未だ ISR として臨床に存在している。近年は薬剤溶出性バルーンが登場し ISR の治療方法として普及しているが DES-ISR は OFDI の所見から治療戦略を検討する必要がある。